

平成 2 1 年度 実施事業	事務事業名 スクールカウンセラー活動経費
-------------------	------------------------------------

区分	番号	名 称
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	2	学校・家庭・地域と連携し心豊かな人間性を育む
施策	1	子どもたちの生きる力を育む
小分類	2	豊かな人間性の育成
主要な施策	3	教育相談の充実
事務事業番号	001	事務事業コード 52123001 事業開始年度 平成 8 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	スクールカウンセラー活用事業費
------	------	------------	-----------------

部 名	教育部	グループ名	学校教育G
-----	-----	-------	-------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

対 象	(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください) 児童・生徒及び保護者、小中学校の教職員
手 段 (事業の内容・活動)	(目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください) 小中学校における、不登校やいじめ等、児童・生徒の問題行動に対応するため、専門的な知識、経験を有する「スクールカウンセラー」を配置し、カウンセリングの機能充実を図る。 拠点校(西陵中学校・緑陽中学校)に配置し、必要に応じ市内各小中学校のカウンセリングに対応している。 スクールカウンセラーの勤務形態は、原則として年35週、週当たりの勤務時間は8時間以上12時間以内。
目 指 す 姿 (成果)	(事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください) 児童・生徒の臨床心理に関するカウンセリング体制の充実
根 拠 法 令 等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください) スクールカウンセラー活用事業実施要項

指標の推移

区 分		単 位	区 分	21年度 実 績	22年度 目 標	23年度 目 標	24年度 目 標	25年度 目 標
成果 指標	相談件数	件	目標値	150	150	150	150	150
			実績値	293				
			目標値					
			実績値					

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業 の 財 源 内 訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円	254	288	93	93	93	279
合 計				254	288	93	93	93	279
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	132	139			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		132	139			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？
本事業は、北海道教育委員会が行なっているスクールカウンセラー活用事業を活用したものであり、市が事業を実施することは妥当である。			
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？
スクールカウンセラーの助言に基づき、学校の枠組みを超えた取組も行なっている。専門的知識を有するスクールカウンセラーの配置は、児童生徒だけでなく教職員、保護者にも安心感を与えている。			
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのように向上させますか？向上させることができない理由は何ですか？
事業の継続により、児童・生徒のカウンセリング体制の整備が図られる。			
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？削減できない理由は何ですか？
今後も、児童・生徒が抱える問題の多様化、複雑化により相談件数の増加が予想されることから、カウンセリングの時間確保のために予算は削減できない。			

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	学校生活において児童生徒が抱える様々な悩みや不安は、いじめ、不登校にもつながりやすく、気軽に相談できる体制を整えることは重要である。 また、児童生徒の問題行動等は複雑・多岐にわたり、専門的な知識を有するスクールカウンセラーの配置は、教職員、保護者にとっても必要なことである。
----	----------------------	--

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）